麹町平河町後家偈楼上月次掛額　辛丑十月分

霞遊庵烏仙評

天（八六）九巴　地（〇一八）梅月　人（一〇六）小雨

巴連

外　枠化　鵬平　葉老　耕雲　豊彩
　　忠夕　枠石　葉寿　佶果　大笑

寒中笠篭之部

黄る払ひ果て冬枯寂しさ　ヌカサヽ
能ゝ春ゝや雨ふる蓮の庵の寺　アカクサ
鶴の歩行音ありゝ霜柱　世レニ
千ろ全もつゝし冬籠茶子讓　、
風ろ数ゝ中ゝに冬寒ゝや枯柳　本セウ
日の経の柳れつゝして財布ゝり　、
生ゝも寒き筆てきてしさて勝や走ゝて　、
風呂場りしまれ影ゝや膝の人　ウ三ヒ
時雨ゝてや大きゝ客声のこゝ嵐寒　ヨツヤ
ふり浪る岸の寄りや暁夜雲　三ロカ子
木かゝし年家ゝと覚て炭斗　、
朝へさしてつゝやみゝの月　、
くる夜ゝ月の岸ける寒さゝ　三文下
魚ても寒さゝても閉し山社　、
掃窓け八気立ゝ聴る冬中しぐ　、
眠縁して幣立ゝり時き山　ハノカ川
来の際香て又しくれ凡そ　キンツ
晴風や破家つゝ花の始けり　、
ふく切ゝ月の冬きや冬てう山　ホシノ山
ふく終ゝのまわり冬する隣ゝだ

此豪鳥佶白雪東葉大耕空表浪小鹿安鳥社梅笑
延寿升果鶯虎ゝ丸花笑月　誌十川仙好片月寿生

寐ゆきてもまださ八海しきから尾　三川タ二　トキハレン
ぬ小白ハ諸りて謝し世子の月　、
枯あしや都より沼の一羽　、
声くれて小松てもの内ありむ芒　、
白の光る八坂の燈やゑの本ゑ　、
雑子の庵の夕もえる枯野かな　木セウ
野菊も寒いか新なるや小菜風　アカサカ
奈くやの月ら院かゝ翁藤　イテウレン
小さくと照て清節り時雨楽　、
師走と海しゑりこ除行するさて　、
寒き音の見けりも大破小さい車の上　ヨツヤ
時雨てん晴て寒き清かつら　アキタ
またらくと夏響て鳴と寒し　フカ川
紅うさあ石の波むや凡おく　キツウレン
夕ゝ日の主こハ家も月籠かな　、
枯野も人より寂しく月かな　、
二枯三月残へ花くあられ月　、
重ねの季の音小文有り参の柳かな　巴
居中く枯て取て寒る路　ユシマ
人ふれも隣や小菜の初風　タカラレジ
若の葉小ゑこのよれる岩茂　月タカハ、
海しさの寺り宮や重車の音　巴
くゝる野中日の村雨る後　マサコ、
見ねの雨りて寄る史松風　カミ上
ひまつゝ梅の峰あり錦冬月　ワラクレン
吹かすを人小さる小さるや　、
照響てえれハ風あり小菜かな　、
若者れ寒や小菜の日の弾り　、
冬そし下ちえ羽織の背なり　ミタヤ

菱　え　顔　蓉　空　署　峯　装　梅　心　清　清　小　五　家　孫　耕　悉　仝　素　虎　戴　蔦　遠　狂　巴　素　古　一　其　一　訂
波　來　一　種　屋　通　羌　月　叶　家　稲　萩　明　月　舟　雲　双　誅　〇　松　桂　友　都　十　里　十　清　静　左　彩

小春日や所も移く凡輝の来る　コトハレン
千文の海を啼切る浦さまうき　巴、
市二ツ弁の近くるも鶴唇　チフス、
むつかしの月のさしこうしも枯る居むかしな　巴、
浅る菜の下より月まかな　、

仝従兄蕪子郁

菜の花くて世明の冬やし梁町　アカサカ
たまされて好きふありけり袷とけ　アサクサ
樹根のかれやこ小龍れくその朧　、
おくれて月の開れるや冬の木立　ユシマ
野菊やまさ汁の実ハ袁ハ十　、
出ハ深り多して有し秋の宿の家　ヨツヤ
もおし見て入かゝり霧の寂　、
寝の声小の上をもりたり　アサクサ
冬の桜やうちう炭ハ明て来る　水セウ
巨難ら望むや蕎麦のに猿箕　、
冬の多佛月のうらくもりうり　、
明あしみつくり一泉　、
波一時春や寄りくく陳ア来ゝ　子キ
彩のうりも寒くくそ後港の内の空り　アカサカ
将のあく々やぬるき蕎麦小後院の溶月泥　、
将らくかけ鴻く寒やき寒も佛　キツクレン
孫き響すも寒くら隈尋しう蒙　、
月小柳小月小柳れ野辺の房さゝ　シノノ、
近ぬも寒る中くの小柳える海嵐　巴、
曙も寒も分し中くの擬　コトハ、
いつ穿の季くの暮れいさにて月　アヲヤマ
木かりしや研風して北日月　カウミT
蔵されて月の割れる氷子
今一通を寒ふ文来る肉西で
湯雲も冬くろ小十寒の鶸れ家

寵　仝　彩　守　巴　忘　冀　雅　光　条　半　耕　梯　松　女　梅　着　顔　仝　松　蕎　新　角　桂　素　尺　魚　秀　挽　挿　巾
林　集　坊　至　水　〇　栄　空　枕　子　月　沈　消　野　月　波　一　巧　柳　雲　双　子　化　蕪　夕　山　静　不　詠

六郎撰笠を評し

發穀て小車の日向をくしけり　巴ㇾ　閑雲
あまやの上とちりはまけりちらぬ　本セリ　重絶
義むしもえて旅るかり香の梅　キシウタ　一枝
實深き夢や稲もり防女　京ハシ　山周
月の前る書の外ゆる水の郷　アヲ山　抑六
それも迫る日ふしても重ね子ゟ　フカ川　九巴
不二小彩を棹してけり引耶ゟ家　キリウレン　斎璞
方つそりし臍に拵てあり秋の月　巴、　白雨
小葉引や乞る乞てもきゆく不二
夜まさやや風小切れてけえすり　月クハ、　扫静

八郎意を評

光陰の矢ハ翁て在けり比ゟ　巴、　鵬来
春も籠人の苔をはたきかけ　アカサカ、　梅月
常稼しも寡て影も雛よう秋　フカ川　九巴

去くもや是つの八ゟき三寸の隆　大　素杼
納ゟや饗応皆衛て牛の行　泉　春蝶
こゝつてゝ歌くと呉に出てけり年さらぬ　孤乐
素風や旭の立る千の飛　外　慧北
筆拵く松ハ何の事やき千多　犯静

○

ちる所をゑふ夕日中にめて花ゟれり　サ　㐂仙
ちらく日のさしても時雨ゟ二文ゟんだ　イ　鋤月
納暮や作りゟてゞ門ノ松　三　勝泉

納

霜の夢庭前れ
詠えしゝ　仔え多り

判者　霞遊

特別
へ5
6651
29
早稲田大学図書館